

をおっしゃっている」と確信したわけであり
ます。これからの体育の指導者あるいはスポー
ツの指導者に求められているのは、冷静な
分析力、冷静な指導力、冷静な科学的トレー
ニングをいかに行うか。これが基本的には
重要であり、これをやってくれるのが、言う
なれば「科学的」な浦田監督ではないかと
思っているわけであります。

現状の体力を科学的に分析しながら強い
足腰を鍛えていかなければならないわけで
ありまして、今回は10位でありましたが、
どうか皆さん方も高く評価していただき
たいと思います。浦田監督ほかスポーツの監督、

そして先生方も、ロースクールのナンバーワ
ン、会計学のナンバーワンを目指す。そし
て皆さん方のご理解、ご協力、そして本当
の気持ちを示していただくことが、中央大
学がこれから総合大学として本質的に強くな
る道だと、私は確信いたしております。
皆さん方がチームワークをよくし、前に向かっ
て強い挑戦を行うことが一番重要でありま
すので、これからは皆さん方の力をおかりし
てまいります。

そのことをお願いいたしまして、私の新
年の挨拶にかえたいと思います。

おめでとうございます。

永井総長・学長 年頭挨拶

理事長がお話をされたように、今、本学
が取りかかる問題には強い意志がなければ
ならないと考えております。

そこで聞きたいのですけれども、皆さんの
初夢は何でしたか。夢というのは潜在意識
であり、潜在意識というのは強い意志がそ
こに凝縮している。皆さんがどういう夢を描
いたか。それが今、問われているのではな
いかと思っております。それぞれが自分の
持ち場、また大学内における役割をきちんと
自覚し、そこでどういう成果を出すのか、今
年のテーマは何か、それが叶った夢を「初
夢」として見るのではないのでしょうか。

そういった意味では、今、私にとって非
常に気がかりなのは学生の就職問題であり
ます。学生は、生まれた年を選ぶことができ
ません。時代のめぐり合わせの中でいろ
んな問題にぶつかり、そして今の3年生
は大変な時代に大学を出て行こうとしてい
る。その前提には、ほとんどの学生にとっ
て就職問題がある。この就職問題を乗り越
えて、本学の学生たちが本当に夢と希望を
持って本学を卒業し、自分の母校に対して
愛情を持ってこれからの人生を過ごせるよ
うに、この点に関してはまさに「オール中央」
——教職員、先輩たち、父母連の皆さん、
歴代の父母連の役員、すべての関係者が、
この3年生の問題に全力を傾注し、こうい
う時代にあっても、「さすが中央大学、面倒

見のいい、家族的情味の中央大学だ」と言
われる成果を出そうではありませんか。

このような緊急事態の中で、さらに長期
計画を粛々と進めなければなりません。そ
の長期計画の中でも、今、理事長がおっしゃ
られましたように、本当に基礎体力とも言う
べき大学のブランドというのは一朝一夕にな
るものではありません。地道な努力の中で
実力を蓄えていく。それによって社会の評
価が変わっていく。それでしかブランド力の
アップはないと考えております。そのために
すべての関係者が、自分の職場で自分の
役割を考え、全力を傾注していくことが必要
なのではないかと考えております。従来の
先例、慣例を問わず、いいことはやる、改
革すべきは改革する、その気持ちを持って
いただきたいと思っております。

中央大学をよくしていこうという意志を、
ぜひみんなの心の中で表明し、新年の仕事
始めとしたいと考えております。

どうかよろしく願いいたします。

